（様式１）

県立東海高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和６年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

・生徒、教職員、家庭、地域が連携し、地域社会から愛される学校。
・一人一人の自主性、２つの自りつ（自立・自律）性を育むとともに、明るく誠実で、知性豊かな、心身ともに健康な生徒を育成する学校。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会に関する探究を通して、自己の在り方生き方を考えながら、協働的な活動を通して課題の発見と解決ができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

（１）地域や社会に関する探究の過程において、課題解決に必要な知識及び技能の習得方法を身に付ける。
（２）地域や社会への関わりから問いを見いだし、解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を整理したりまとめたりして発表する力を身に付けさせる。
（３）地域や社会についての探究活動において、互いの良さを知り認め合いながら主体的・協働的に取り組むとともに、社会に貢献しようとする態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

・担当者による打合せで学習活動の評価観点や指導上の課題を共有する。
・計画書、中間発表・最終発表の成果、作成資料、振り返りシート等で評価する。
・ポスターセッション時などの相互評価を客観評価として加味する。
・探究の過程における協働作業の中で、自他を尊重する姿勢や積極的に主体的に学ぶ姿勢や態度を授業担当者の観察や振り返りシートの自己反省により評価する。

生徒の実態

明るく素直な生徒が多い一方、基礎的な理解力やコミュニケーション能力に課題のある生徒もいるのが現状である。課題について自分の考えを示せなかったり、協働作業により最後までやり切ることが難しかったりする場面もみられる。知識を整理して活用する力や、話し合いを通して合意形成をしていく力が不足しているのが原因と考えられる。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

・中学校との連携による指導の継続
・少人数（習熟度別）授業の実施
・SHR・健康観察・読書の時間の中での観察
・生徒面談週間（年２回）及び必要に応じた個別面談指導

目指す生徒の姿

地域への愛郷心、学校への愛校心をもち、社会に貢献しようとする心をもつことができる、明るく知性豊かで誠実な人間性をもった生徒。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

【１学年】
（１）知識及び技能
・各探究の過程のポイント・考え方のコツを学ぶことができる。
・身近な自治体を対象とした課題発見・情報収集に活かすことができる。
・他者（上級学年）の発表を参考に、自らの活動に活かすことができる。
（２）思考力・判断力
・グループワークを通して、自他の考え方を比較することで自らの考えを深めることができる。
・共通する課題を持つ者同士で話し合い、考えを深めることができる。
・中間報告を通して、わかりやすい伝え方に配慮することができる。
（３）学びに向かう力、人間性等
・与えられたテーマについて、自分なりに考えたり相談しようとすることができる。
・将来や次の１年間を見据え、抱負を書くことができる。
・道徳を通して人間性を高める。
【２学年】
（１）知識及び技能
・探究活動に取り組むために情報収集のプロセス・具体的方法を理解する。
・身近な地域の将来的な課題を探すことを通して、身近な問題を掘り下げることができる。
（２）思考力・判断力
・集めた情報を活用し、分析し、集団としての意見をまとめることができる。
・プレゼンやポスターセッションの準備を通し、他者に伝えるために必要なポイントを考えることができる。
（３）学びに向かう力、人間性等
・協働活動を通し、他者を尊重することができる。
・プレゼンやポスターセッションを通し、他者を評価し自分に取り入れる積極性・感受性を身に付ける。
・将来や次の１年間を見据え、抱負を書くことができる。
【３学年】
（１）知識及び技能
・自分の課題を明確化し、身近な学習を対象とした課題発見・情報収集に活かすことができる。
・小論文講座や就職に向けての実践演習で得た知識、技能を自分の活動に活かすことができる。
・社会生活で必要になる知識を身に付けることができる。
（２）思考力・判断力
・内容を吟味したり、自他の考え方を比較するなどして、自らの考えを深めることができる。
・共通する者同士で話し合い、考えを深めることができる。
・礼節を重んじた行動ができる。
・多くのものに理解してもらえるようにプレゼンすることができる。
（３）学びに向かう力、人間性等
・与えられたテーマについて、自分なりに考えたり相談しようとすることができる。
・進路に責任を持つことにより、自ら学ぶ意欲を高めることができる。
・高校生活の感謝の気持ちを伝えることができる。

学習活動、指導方法等

・オリエンテーション
・インターネット、学校図書館、村立図書館、歴史と未来の交流館（村施設）の活用
・市町村担当職員による講話
・マナー講習会・社会福祉セミナー・手紙の書き方講座・小論文講座・面接講座
・分野別進路学習
・身近な問題からの課題設定・身近な問題の掘り下げ
・フィールドワーク・インタビュー・アンケートの実施
・データ集計・表現
・上級学年（２学年）報告会の見学
・グループによる口頭発表
・ポスターセッション
・ブラッシュアップ
・上級学年に向けて・社会人となるにあたって（抱負）
・各種インターンシップ

１学年では入門として探究課題を「茨城県内の市町村」とし、各自治体の抱える問題や取り組み事例などの情報を収集・整理・分析し発表する。
２学年では１学年で学んだ、探究活動における見方や考え方、課題設定の仕方を活かし、生徒自身の多様な進路希望・興味関心に対応した課題設定を行う。
３学年では自己の進路実現のために個々に応じた探究活動に取り組む。３年間の学びを通して「母校東海高校の魅力・これから求められること」を課題に探究、発表する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

・「総合的な探究の時間」研究委員会（９名：教頭、教務主、進路主、各学年主３名、学年担当３名）
新学習指導要領に基づき、より東海高にふさわしい内容にするため、学習内容や評価等の改善に取り組む。
・関係各機関との連携
東海村立図書館、東海村担当職員、茨城大学、各種講話外部講師、各分野別講師、インターンシップ受入先